

## 景気の概況

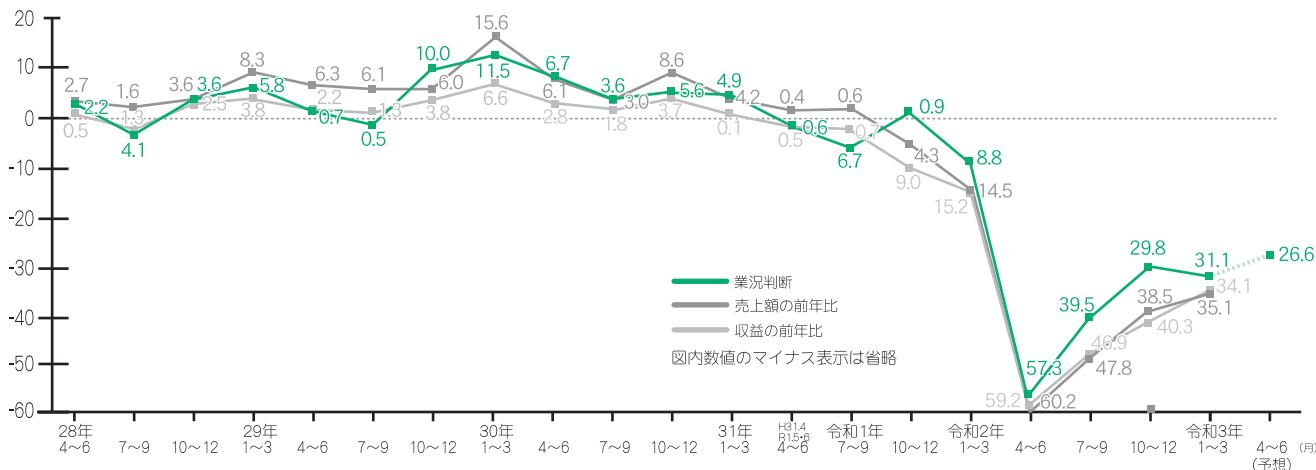
### ●経済・物価の現状と見通し

わが国の景気は、内外における新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している。海外経済は、一部で感染症の再拡大の影響が残るもの、持ち直している。そうしたもので、輸出や鉱工業生産は増加を続けている。また、企業収益や業況感は全体として改善している。設備投資は、一部業種に弱さがみられるものの、持ち直している。雇用・所得環境をみると、感染症の影響から、弱い動きが続いている。個人消費は、飲食・宿泊等のサービス消費における下押し圧力の強まりから、足もとでは、持ち直しが一服している。住宅投資は緩やかに減少している。公共投資は緩やかな増加を続けている。わが国の金融環境は、全体として緩和した状態にあるが、企業の資金繰りに厳しさがみられるなど、企業金融面で緩和度合いが低下した状態となっている。物価面では、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、感染症や既往の原油価格下落の影響などにより、マイナスとなっている。予想物価上昇率は、弱含んでいる。

先行きのわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に和らいでいくもので、外需の回復や緩和的な金融環境、政府の経済対策の効果にも支えられて、改善基調を辿るとみられる。

(日本銀行 3月発表)

### ●業況判断及び売上額・収益の前年比DIの推移（全業種合計）



### この調査のご案内

1.調査の目的  
埼玉県および東京都の一部地域における中小企業の最近の景気動向の把握と、当金庫お取引先等への経営情報の提供を目的に実施しています。

2.調査の時期  
令和3年3月1日(月)～5日(金)

3.調査の内容  
・前期(令和2年10月～12月期)と比べた  
・当期(令和3年1月～3月期)の実績  
・当期と比べた来期(令和3年4月～6月期)の予想

4.調査対象  
当金庫お取引先企業数 460社  
回答企業数 459社 (回答率 99.8%)

5.調査方法  
調査員による面接聞き取り法、またはご回答企業による直接記入法

この調査の分析はDI(ディーアイ)を景気判断の指標として用います。

DIは、「増加」「上昇」「楽」と答えた企業割合から「減少」「下降」「苦」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。この数値がプラスかマイナスかそしてその大きさによって景況の動きを時系列的な推移の中で分析しようとするものです。

なお、「増加」には回答項目の「やや増加」を「減少」には「やや減少」を含みます。「上昇」「下降」等も同様です。従って、グラフも「増加」「不变」「減少」等の3区分で表示しています。

7.業種別・従業員(除くパート)

規模別調査対象企業数

	製造業	卸売業	小売業	建設業	不動産業	サービス業	合計
1～4人	18	18	59	25	36	17	173
5～9人	27	7	17	27	12	9	99
10～19人	18	12	9	27	6	9	81
20～49人	22	5	9	13	4	6	59
50～99人	10	1	2	3	1	1	18
100人以上	8	2	6	2	2	9	29
合計	103	45	102	97	61	51	459

# 全業種総合

業況は悪化がやや強まる

## 1 業況

当期(1~3月期)の全業種の業況判断は、前回調査時における当期の予想(△33.1)をやや上回りました。来期は悪化幅が縮小する予想となっています。

全業種総合の業況判断のDI(「良い」-「悪い」)は、前期△29.8から当期△31.1と悪化幅がやや拡大しました。来期は△26.6と悪化幅が縮小する予想となっています。

業況を天気図でみますと、総合では前期に引き続き当期も「曇り」となっており、来期も「曇り」が続く予想となっています。

業種別では、当期は製造業が「雨」から「曇り」に、建設業と不動産業が「曇り」から「薄曇り」に好転しましたが、卸売業と小売業は「曇り」から「雨」に悪化しました。サービス業は「曇り」が続いている。

来期は、卸売業と小売業が「雨」から「曇り」となりますが、その他の業種では当期と変わらない予想となっています。

## 2 売上額

売上額のDI(「増加」-「減少」)は、前期△8.8から当期△25.4と減少幅が大幅に拡大しましたが、来期は△12.1と減少幅が大幅に縮小する予想となっています。

## 3 収益

収益のDI(「増加」-「減少」)も、前期△13.5から当期△27.2と減少幅が大幅に拡大しましたが、来期は△11.5と減少幅が大幅に縮小する予想となっています。

## 4 資金繰り

資金繰りのDI(「楽」-「苦しい」)は、前期△11.5から当期△13.3と、厳しさがやや強まりましたが、来期は△11.8と厳しさがやや弱まる予想となっています。

なお、民間金融機関からの借入難易度DI(「容易」-「難しい」)は、前期6.1から当期1.5と容易さが弱りました。

## 5 設備投資

設備についての過不足感は、前期△5.0から当期△8.2と不足感が強まりました。来期も△9.4と不足感がやや強まる予想となっています。

設備投資実施企業の割合は、前期22.9%から当期24.5%に増加しました。来期は19.3%の予定となっています。

(注) この天気図は本調査のDIを総合的に判断し作成したものです。



業況	単位 %		
	良い 増加 上昇	普通 変わらず	悪い 減少 下降
前期実績 (10月~12月期)	14.6	41.0	44.4
当期実績 (1月~3月期)	15.7	37.5	46.8
来期予想 (4月~6月期)	14.6	44.2	41.2

DI

-29.8

-31.1

-26.6

## 売上額

売上額	単位 %		
	楽	変わらず	苦しい
前期実績 (10月~12月期)	27.2	36.8	36.0
当期実績 (1月~3月期)	20.0	34.6	45.4
来期予想 (4月~6月期)	20.3	47.3	32.4

DI

-8.8

-25.4

-12.1

## 収益

収益	単位 %		
	過剰	適正	不足
前期実績 (10月~12月期)	23.3	39.9	36.8
当期実績 (1月~3月期)	16.8	39.2	44.0
来期予想 (4月~6月期)	19.0	50.5	30.5

DI

-13.5

-27.2

-11.5

## 資金繰り

資金繰り	単位 %		
	楽	変わらず	苦しい
前期実績 (10月~12月期)	11.8	64.9	23.3
当期実績 (1月~3月期)	9.8	67.1	23.1
来期予想 (4月~6月期)	8.7	70.8	20.5

DI

-11.5

-13.3

-11.8

## 設備

設備	単位 %		
	過剰	適正	不足
前期実績 (10月~12月期)	-4.3	86.4	9.3
当期実績 (1月~3月期)	-3.8	84.2	12.0
来期予想 (4月~6月期)	-2.8	85.0	12.2

DI

-5.0

-8.2

-9.4

## ●設備投資の実施割合

